



らかに藤沢長太郎の誤りであり、他の箇所にも間違いが目立つ。また、明治二年正月印刷の別の版の役人付（学問所御用製本所・板元本屋市蔵・六段記載形式で縦の仕切り線があるもの、原渡辺八郎家文書A-159）では、「江原三介」「藤沢長太

シリーズ

沼津兵学校とその人材

53

海軍造船の功労者 白井藤一郎

沼津兵学校第九期資生に白井藤一郎という人物がいた。彼について、これまで、最初掛川に移住、後に工部大学校機械科の第三回卒業生となり、海軍造船大監をつとめたという以外、詳しい経歴は不明であった。中には名前すら「藤次郎」（石橋綱彦「沼津兵学校沿革」五）、「藤五郎」（『掛川市誌』）などと誤って記されたものもあった。ところがこのほど、横須賀市西浦賀町の東福寺に存在する墓碑から、詳しい経歴が判明した。以下がその碑文である。

白井君碑

海軍造船大監正五位勲三等白井君 碑銘 海軍大将正三位大勲位功一

郎」となっているのである。ということは、二年正月版で誤りが訂正されたということになり、『沼津市誌』では二年正月のものとしてい

級伯爵東郷平八郎題額

明治三十七年八月二十二日海軍造船大監白井君没於佐世保海軍病院 夫人高橋氏奉喪婦以其月三十一日 葬于相模浦賀東福寺塋域横須賀佐 世保兩鎮守府司令長官及同僚諸士 莫不衡哀致弔以痛惜焉君為人沈毅 寡言居職恪勤理事縝密二十七年清 国渝盟海警孔棘君在横須賀造修艦 船軼掌竣工三十年奉命赴英国監造 三笠朝日二艦五年終事三十六年秋 露国有違言廟議漸動君奉命赴佐世 保重修敷島八島浅間等諸艦以備出 師明年遂伐露佐世保最為水軍要地 君職事甚劇日夜励精修理艦船前後 數十艘八月我第二艦隊破敵艦隊於

韓国蔚山海我艦被傷還佐世保者修繕期六日時君適病聞命力疾奮勵人或止之不聽曰是吾職也括不寢者數 晝夜病革熱甚謔語屢作然係職司者 指揮庶答未曾一錯其工纔畢遂不起 嗟乎若君可謂以死奉公矣君諱藤一 郎以安政三年四月二日生於浦賀考 諱道考妣山崎氏家世仕幕府明治初 移遠江掛川籍静岡藩君甫十余歲受 藩命學於沼津兵学校明治八年選入 工学寮專攻機械工学以甲第卒業為 工學士任海軍三等工長進大技士主 幹横須賀造船所機械科累遷造船大 監陞叙從五位勲五等三十六年補佐 世保海軍造船廠長會職制革更補造 機部長又嘗為工科大学講師造船規 程調査委員少好音樂晚學禪於積宗 演有所造詣臨歿特旨叙正五位勲三 等賜旭日中綬章得年四十九子一人 曰鏡太郎嗣君歿之明年五月親族僚 友相謀將建碑表之囑余作銘適敵艦 三十余艘入朝鮮海峽我連合艦隊遊 擊大破之君所監造三笠實為司令長 官東郷大将旗艦云銘曰

列邦對峙 物競力敵 火砲鉤轟 水雷騰擲 輕舸堅艦 縱橫翕關 嗚呼大監 深究精研 董造得宜 百戰維全 偉矣厥績 千秋永伝

明治四十年九月 從六位内田周平撰

海軍機関少将正五位勲二等 功三級山本安次郎書

この文面からは、白井が安政三年（一八五六）、浦賀生まれであること、維新時掛川に移住、沼津兵学校に学んだこと、工学寮（工部大学校）を卒業したこと、海軍に奉職し明治三十年（一八九七）から三十六年（一九〇三）までイギリスに滞在し戦艦三笠などの建造を監督したこと、佐世保海軍造船廠長・工科大学講師などを歴任したこと、日露戦争では傷ついた艦船の修理に獅子奮迅の活躍をしたが、日本海海戦の大勝利を目にすることなく、明治三十七年（一九〇四）四十九歳で病没したことなどがわかる。連合艦隊司令長官の東郷平八郎が題額の書を担当している。この碑以外の文献からは以下のことがわかる。白井家は代々幕府の浦賀奉行所の同心をつとめていた。藤一郎は諱を道紀といい、同家の十代目になる。父道考（藤五郎）は、奉行所の組頭や砲術世話役もつとめた。同家に残された膨

大な古文書は横須賀市立図書館に寄贈され、翻刻・刊行も進められている（横須賀史学研究会編・刊『新訂白井家文書』）。

藤一郎の最初の妻は浦賀奉行所与力中島三郎助の娘だったが、藤一郎は、箱館戦争で戦死した中島のため明治二十四年（一八九一）浦賀に建てられた顕彰碑の建設発起人の一人になっている。

なお、藤一郎の碑文の書を担当した山本安次郎（一八六一〜一九一三）は、浦賀奉行所同心の出身で長崎海軍伝習所に学び咸臨丸にも乗艦した山本金次郎の息子であり、旧幕臣として白井と同様掛川

に移住、掛川聚学所（この学校を沼津兵学校掛川支寮と称する文献もあるが根拠不明）に学んだ人である。白井は掛川聚学所から途中沼津兵学校に転入するが、山本とは浦賀や掛川以来の旧友だったのである。白井や山本は、中島三郎助・佐々倉桐太郎・浜口興右衛門・春山弁蔵・山本金次郎ら、長崎海軍伝習所に学び幕府海軍の創建を担った浦賀奉行所出身第一世代に

対する第二世代と言えよう。この小文を作成するにあたっては、東福寺、鈴木亀二、山本詔一、小林晶子の皆様にご教示いただいた。記して感謝申し上げます。



白井藤一郎墓碑  
（横須賀市 東福寺）

▲白井藤一郎  
（『造船協会四十年史』より）

## 愛鷹牧士と沼津藩士

ぬまづ近代史点描 ④

愛鷹牧は江戸幕府が駿河国に設置した馬の牧場である。その管理を任された地元責任者を牧士（もくし）という。牧士には地域の有力な豪農・豪商が任命され、幕府からは給金を支給され、苗字帯刀を許されるなど、その役をつとめることを名譽とした。

年に一回行われる捕馬（馬の捕獲）は、多数の農民を勢子として動員した大々的なもので、牧士がその権威を示すにはうってつけの好機であった。近郷近在からは多くの見物人が集まり、捕獲場所の周辺は大変賑わった。しかし、威勢を振るう牧士は、見物人との

間でトラブルも引き起こした。

沼津藩士の出身で明治後はキリスト教の牧師になった三浦徹は、少年時代（文久期）の思い出として、捕馬を見物に行った際、見物場所をめぐって牧士と争いがあつたことを後年書き残している。威張る牧士は、先に良い場所に陣取っていた三浦の連れの沼津藩士を追い出そうとしたが、「俺を沼津藩士と知ってのことか！」と一喝され、急にペコペコし出したというエピソードである。

クリスチャンである三浦は、この逸話から、驕慢は失敗の基であるという教訓を導き出すとともに、



「牧士の失敗」挿絵  
（『喜の音』142号）

相手の失敗を愉快に思った自分自身をも戒める文章を残している（三浦徹『恥か記』所収「牧士失敗の事」および『喜の音』142号所収「牧士の失敗」）。

お知らせ欄

◎沼津市明治史料館史料目録23・

24の刊行

史料目録23『下香貫森田家・高田家文書目録』(B5版・164頁、頒価一、〇〇〇円)、24『本町和田家・岡宮杉山家文書目録』(B5版・110頁、頒価八〇〇円)。いずれも当館で収蔵・保管する文書・マイクロフィルム資料の目録です。利用の際の検索手段として有効です。

◎ビデオ「昭和十一年の江原素六銅像除幕式」を制作しました

館ロビーで放映しているビデオに新たな作品が加わりました。昭和十年(一九三五)に執り行われた江原素六未亡人縫子の葬儀や同十一年に建立された江原素六銅像の除幕式を撮影した貴重なフィルムを編集したものです。時間14分。

◎ゴールデンウィーク中の開館

4月28日(水)、4月30日(金)、5月6日(木)以外は開館していません。

◎5月19日は無料開館日

5月19日(水)は江原素六の墓

前で記念祭が開催され、当館の展示室も無料で開放します。

◎平成10年度受贈資料

多比渡辺家文書(松本隆平様)、白岩寛水画面色紙他(石井敏子様)、久保田泰温画掛軸(蒲原町・長榮寺様)、原南翁画扇額(吉田益夫様)、古新聞(相原ゆき様)、旧幕臣辞令(内藤昌義様)、岩崎久弥書簡(山本三朗様)、愛国百人一首かるた(渡辺一平様)、渡瀬昌邦・寅次郎・庄三郎兄弟写真(村上素男様)、江原素六書簡(山本静男様)

◎平成10年度受託資料

口野足立家文書(足立誠一様)、本町和田家文書(和田夏樹様)

◎平成10年度マイクロ撮影資料

岡宮杉山家文書、今沢天野家文書、木瀬川区有文書ほか

◎平成10年度館蔵資料の出版物

への写真・資料提供

駿河古文書会編『統駿河の古文書』、『静岡の文化』55号、『蕪山町史』年表、静岡県茶文化振興協会『茶道楽』10号、静岡市教育委員会『写された明治の静岡』、『伊豆の国 第一集』、田村貞雄編『徳川慶喜と幕臣たち』、『静岡新聞』「美

術館・博物館めぐり」欄、磐田市教育委員会『いわたの明治維新と近代化(ビデオ)』

◎平成10年度館蔵資料の展示

放送用貸出・提供先

米山梅吉記念館常設展示、原地区センター開館記念展示会、静岡市教育委員会「徳川慶喜と明治の静岡」写真展、富士市立博物館「加島 米と水」展、中近東文化センター「ギターライン」展、フジテレビ・ハイビジョン「鉄道唱歌の旅」、N T T静岡支店インターネット・ホームページ、沼津市立図書館企画展「もつと知ろう沼津―ぬまづがいちばん―」、NHK教育テレビ「金曜フォーラム」、函南町教育委員会「親子で考える平和」展、磐田市立図書館「磐田と山中共古」展、日本テレビ「おもいっきりテレビ」、NHK静岡放送局・静岡百年映像の20世紀、キラメッセぬまづ「ふじのくににのくににメッセ99」

◎沼津香陵ライオンズクラブがビデオ「沼津兵学校」を制作

沼津香陵ライオンズクラブの皆さんがビデオ「沼津兵学校」を制作し、沼津市内の小中高校や市立図書館へ寄贈しました。著作は当館が担当したもので、兵学校について概説を紹介する内容で、15分の作品になっています。

◎館職員の人事異動について

4月1日付の人事異動により、当館館長(兼教育委員会事務局参事)として大川雅夫(前市民文化センター所長)が就任しました。その結果、当館と歴史民俗資料館館長を兼務していた大場章吉は歴史民俗資料館館長(専任)となりました。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

◎機構改革が行われました

4月1日付で沼津市教育委員会の機構改革が行われ、当館はこれまで属していた社会教育課が生涯教育課と文化振興課に分離した結果、文化振興課に属しました。

沼津市明治史料館通信 第57号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒410-0051沼津市西熊堂三七二-1  
電話 〇五五九-二三三三三五  
FAX 〇五五九-二五三三〇一八